新作いろは加留多

坂口安吾

青空文庫

いろは加留多には「ン」がない。多分ンで始まる言葉がないからだらう。ところが、四五年前、ンで始まる金言を発見したから、ついでに「いろは加留多」を作らうかと思つた。そのうちに忘れてしまつたけれども、又、正月が近づいたから、思ひだした。ンの金言を発見した次第は、次のやうなものである。

北原武夫が都新聞の文芸記者をやつてゐたときの話である。都の匿名欄には僕も時々書いてゐたが、題と匿名は編輯者に委せて、僕がこしらへたことはなかつた。

匿名も同じものを続けてゐると、忽ち看破られる。そのうへ知らない読者には、匿名だけが一本立で歩くやうになり、書いてる本人は、ねざめのいゝ話ではない。それで、ひところ、編輯者の方で、しよつちう匿名を変へてゐたこともある。

ところで、話は「アリマセン」の「ン」であるが、アリマセンなら何でもないが、ンだけ一つ切離して言つてごらんと言はれると、降参する。腹に力をいれて「ン」と言つてみると三分の二ぐらゐ風になつて洩れたやうで、甚だたよりない。つまり一語分の資格に欠けてゐるのである。だから、これを真正直に発音した方で、拍子が抜けて、「ン」の奴に馬鹿にされたやうな、間の抜けた感じなのだ。

ふと、このことに気がついたから、然らば、ひとつ、天下のインテリ共を「ン」の字でもつて翻弄し、みんなに「ン」の字を発音させて、厭世感を深めさせてくれたら、さだめし面白からうと考へた。雑作もないことだ。都新聞に「ン」の匿名で書けばよい。翌朝、僕がまだ寝てゐるうちに、厭世者が続出してゐることになる。そこで、原稿を拵へて、意気揚々、都新聞社へでかけた。

「ねえ、君」と、僕は得意になつて北原に言つた。「この匿名を読んでごらん。拍子抜けがするだらう。一人前の字ぢやないんだね。張合がなくて、甜められたやうな、なさけない気持にならないかね。だから、君、読者をみんな悩ましてやるのさ」

北原は原稿を睨んでゐたが、暫く黙然、怪訝な顔をしてゐる。

「これはウンといふ字だね？」

「え？」

「ウンといふ字ぢやないのか？」

北原は自分が間違つたのぢやないかと赧らみながら言つたが、僕はピストルでやられてゐた。ンをウンと読む奴があらうとは！　なるほど、ウンなら一人前だ。をかしくもなんともない。僕は意気消沈したが、世の中は北原ばかりぢやない。慌て者もゐることだから、と、しみつたれた根性で、一回だけこの匿名を使つてしまつた。いろは加留多の条件を覆す大金言を発見したのは、まさしく、この時のことなのである。

「ンをウンと読む利巧者」

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集　03」筑摩書房
　　1999（平成11）年3月20日初版第1刷発行
底本の親本：「現代文学　第四巻第一〇号」大観堂
　　1941（昭和16）年11月30日発行
初出：「現代文学　第四巻第一〇号」大観堂
　　1941（昭和16）年11月30日発行
入力：tatsuki
校正：noriko saito
2008年9月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新作いろは加留多

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/